

あげまして

おめでとうございます

今年もよろしく

お願い申し上げます。

暦年号が「一九八五」と代り、本誌も「八四巻」と齡を重ねた。一月おくれながら、新春のご挨拶を申し上げておきたい。世紀末の警鐘が乱打される中で、保育現場の動きは、子どもの園ならではの健かさでくり広げられてほしいと、切望することしきりである。

改めてふり返る瞳に、本誌八四年の歩みは、その時々幼児教育界とのかかわりの様相を反映して、幾つかの異なったありようで把えられる。たとえば、ひたすら啓蒙に意を尽くし、先導的試行の器であった前半期、それに対して、右顧左眄をくり返す斯界に対して、決然と一つのかたちを守り通し、不退転の意志を顕在化させ続けた後半期……。この両態

が、本誌八四年の歴史を貫流する動的な思想であったと言えよう。

そして、いま、本誌は、幼児教育界とひたすらに向き合う、従来の関係から微妙に身をずらし、いわゆる「現場」なるものから、ある種の距離を取り始めている。「現場ばなれ」という密やかな眩きは、誰よりも編集子自身がくり返し口にしている。その意味を確かめ直しているもの一つなのだ。すなわち、幼児教育に関する本質的な必要に応えようとするなら、いま、本誌を、「幼稚園・保育所」という制度的な囲いの外に、解き放つべきなのではないか。というより、「幼児」として彼らをめぐる保育の営みそのものを、より広い地平に解き放し、人と文化にかかわる基本的な問いとして問い直して見るべきではないのか。今年もまた、より拡散するであろう記事内容を慮りつつ、所感の一端を表明しておきたい。

(H)

幼児の教育 第八十四巻 第二号

二月号 ㊦

定価三〇〇円

昭和六十年一月二十五日 印刷

昭和六十年二月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします

*万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。